

Digital Campus Consortium

早稲田大学

デジタルキャンパスコンソーシアム

第6次設立趣意書

ボーダーレスな
知の循環による教育改革

国際化の次なる
段階を生き抜く
グローバル人材の育成

産学連携による
知の国際連携



～多文化共生による
世界市民の育成をめざして～

はじめに

1. これまでのDCCの成果

2. 第6次DCCの目的

3. 第6次DCC活動内容

4. 会員企業の参加方式

[付録]第1次～第5次DCCの実績

デジタルキャンパスコンソーシアム会長

早稲田大学理事 大野 高裕

早稲田大学は、1990年代より、教育研究を世界トップレベルの水準に高めるため、21世紀型大学モデルの実現に向けた様々な試みを行ってきました。『早稲田大学デジタルキャンパスコンソーシアム』(DCC)は、これらの取り組みを支える基盤として『情報化』『国際化』『産学連携』の3要素を融合することにより、国内でも類をみない「**教育分野における産学連携共同体**」として多くの実績を積み上げてきました。



DCCは1999年の発足以降、**Tutorial English、オンデマンド授業、CCDL** (Cross-Cultural Distance Learning)など、数々の教育プログラムを開発し、その多くが現在では**早稲田大学における教育の中核的機能**を担っています。今後は、これらの教育基盤を活用しつつ、新たな段階への対応が求められてきます。

早稲田大学は2012年11月に、創立150周年を迎える2032年を見据えた中期計画『**Waseda Vision 150**』を発表しました。そこでは「**グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築**」「**教育と学修内容の公開**」「**対話型、問題発見・解決型教育への移行**」など、教育改革にかかわる核心戦略が掲げられていますが、これらは**ICTの活用なくして実現たりえない**と考えています。**DCCの果たすべき役割はますます重要**になってきます。

第6次DCC(2014-2017年度)では、これまでの方向性を継承しつつ、会員企業とのより強固な連携のもと、**21世紀型の新たな教育システムの創造と人材育成を通じた社会貢献**を推進していきたいと考えています。またその成果をもって新たなボーダーレスな学びのコミュニティである**ACC** (Asia Cyberlearning Community) の**実現**を目指してまいります。

このような趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

1.これまでのDCCの成果

◆第1次DCC(1999-2001年度):

ネットワーク型授業・海外大学との異文化交流授業・チュートリアル外国語学習プログラムの実用化・早稲田大学との共同事業会社2社の設立など、大学と産業界が協力しながら、情報化をベースとする21世紀型の新しい大学モデルを実現するための基礎を築きました。

◆第2次DCC(2002-2004年度):

NPO法人オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)・実務能力認定機構(ACPA)の設立、大学事務システムプロトタイプが無償配付、オープンソースソフトウェア研究所設立、サイバーユニバーシティコンソーシアム(CUC)の基盤構築など、幅広い展開をおこないました。

◆第3次DCC(2005-2007年度):

国際遠隔共同授業の実施、CCDLの標準化と拡大、日本語教育プログラムの拡充と海外展開、FOLCとACPAの活動支援を通じたオンデマンド授業と実務教育プログラムの流通促進など、国内・海外の大学および企業とのネットワーク拡充による『アジア・サイバー・カレッジ』(ACC)の基盤を整備しました。

◆第4次DCC(2008-2010年度):

ACCをアジアの学生や社会人が、eラーニングを通じて、グローバル・リテラシーと実務能力を継続的に学習する機会を提供する仮想の(バーチャルな)仕組みと位置付け、体系化された「ACC/Wコース」科目群の整備、参加者が互いに学び教えるインターネット上の継続的な学習コミュニティ(QuonNet)の形成を進めました。

◆第5次DCC(2011-2013年度):

「ボーダレスな知」を循環させる新たな学びのコミュニティACC(Asia Cyberlearning Community)の実現、多文化融合社会に対応した教育システムの高度化を目指し、異文化交流の促進、次世代eラーニングシステムの検討、授業および学習成果のデジタル化の推進に取り組みました。あわせてシステムのモバイル対応や、コンテンツ配信環境の整備、電子教材のプロトタイプ開発、など早稲田大学の次期システム開発の基盤となる仕組みを構築しました。

2. 第6次DCCの目的

～多文化共生による世界市民の育成をめざして～



第6次DCCでは、これまでのDCCの活動の中で築いてきた基盤やノウハウを継承し、早稲田大学が「**Waseda Vision 150**」で掲げる理想(グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築、対話型・問題発見・解決型授業への移行、教育と学修内容の公開など)の実現を目指し、**ICT活用による新たな価値を創造**を目指します。

具体的には、ICTを活用した教育をさらに推進することにより、**リアルな授業を革新**(対話型・問題発見・解決型授業への移行)し、**その成果を公開**することにより、**オープン教育ネットワークの展開**につなげていきます(教育と学修内容の公開)。また**国際化の次なる段階**を視野に入れつつ、**多文化融合社会を生き抜くグローバル人材の育成**を目指します(グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築)。

さらには、それらの成果をもとに**産学連携をベースとした知の国際連携**のもとACC (Asia Cyberlearning Community)を実現し、**社会貢献**を果たします。

◆第6次DCC活動内容

- (1) ボーダーレスな知の循環による教育改革
- (2) 国際化の次なる段階を生き抜くグローバル人材の育成
- (3) 産学連携による知の国際連携

3. 第6次DCC活動内容

(1) ボーダレスな知の循環による教育改革

◆授業支援システム・授業形態の革新

ICTを活用した教育支援システムのさらなる普及により「**対話型、問題発見・解決型授業**」への移行を実現します。**リアルな授業に革新をあたえるICT活用**を視野に入れ、システムを提供するだけにとどまらず、効果的な活用法を提示し、普及の仕組みについてもあわせて検討します。

【具体的な施策案】

➤いつでもどこでも学習可能なモバイルラーニング環境の実現

LMS (Learning Management System) について**モバイル対応**を実施するとともに、**モバイル向けコンテンツ配信環境**を整備します。あわせてモバイル端末でも利用可能な**Webベースの多機能電子教材**を教員が手軽に制作し配信できる環境を提供することにより、学生はそれらの教材を利用し、**隙間時間**を活用して**いつでもどこでも学習し理解を深める**ことができるようになります。

また教室授業においても、**スマートフォンやタブレット**を活用した**双方向授業**を実現するための仕組みを提供します。具体的には**スマホ版クリッカー**により学生の理解度や反応を見ながら授業を進めることができるようにしたり、**電子黒板とタブレットを連携させたインタラクティブな授業**の実施モデルを構築し、普及を図ります。

➤リアルな授業を革新するICT活用の推進

オンデマンド授業と教室授業を組み合わせることにより、教室における授業のスタイルを変革し、リアルな場では学生がより**主体的、能動的に学ぶ**ことができる環境を提供します。インフラおよび各種ツールを整備するとともに、それらを効果的に活用した**Good Practice**をモデル化し、展開するための仕組みを構築します。

3. 第6次DCC活動内容

➤対話型、問題発見・解決型教育を実現する学習環境の創造

無線LAN環境の拡充により全キャンパスのオンライン化を実現し、教室やラウンジ、食堂などで学生がスマートフォンやタブレット、PCなどを利用して学習リソースにアクセスし、活用できる環境を提供します。

また次世代端末室環境として、据置型のコンピュータールームから脱却し、自宅のPCやモバイル端末から大学が提供するソフトウェアを利用することができる仕組み（バーチャルデスクトップ等）を提供します。

さらに学生のグループワークやフィールドワークをサポートする仕組みとして、KJ法などで利用可能なWebボード機能、電子黒板、タブレット型端末の効果的な活用法を検証し、授業のモデルケースに組み込んだうえで、普及を図ります。

◆学習ポートフォリオの確立と学習意欲の高揚

学生のあらゆる学習成果、成長の記録を蓄積し、活用するためのプラットフォームとしてポートフォリオシステムを構築し、全学導入および活用を目指します。ポートフォリオで蓄積した情報は、学生自身が学習成果を確認することに利用する他、就職活動等における自己アピールの材料として公開したり、教員からは「学生カルテ」として利用できるようにします。

【具体的な施策案】

➤ポートフォリオシステムの構築と活用

ポートフォリオの基本システムを構築し、LMSと連携して自動的に学習成果が蓄積される仕組みを提供し、学内における本格導入を目指します。

ポートフォリオシステムの本格稼働により、学生は自身の学習を振り返ったり、他の学生や教員からのフィードバックを得たり、学習成果を整理して公開することができるようになります。また電子化された学習成果だけでなく、レポートやミニツツペーパーなどの手書きの学習成果を複合機などを利用してデジタル化し、ポートフォリオに蓄積したり、教員が採点やフィードバックを記入したうえで学生に返却することができるようにし、全ての学習成果が蓄積・活用されることを目指します。

3. 第6次DCC活動内容

▶学生カルテ機能の提供

ポートフォリオで蓄積した学習成果を活用し、**効果的できめ細やかな学生指導**を可能とする「**学生カルテ機能**」を提供します。ポートフォリオに蓄積された学習成果の参照のみならず、**LMSの操作ログをもとにした学生の行動評価**(ex.資料を掲載後すぐに確認するのは望ましい行動、締切ぎりぎりに確認するのは望ましくない行動、など)をもとにした学生指導を実現する仕組みについても検討します。

◆「オープン教育ネットワークの展開」

早稲田大学の**教育内容をICTを活用して広く国内外に公開し、「教育の早稲田」を可視化するとともに、誰もが学び、教えあうボーダーレスなコミュニティ(ACC)の形成を目指します**。教育・学修内容を公開するためのプラットフォームとして、**授業収録・コンテンツ化・配信までを統合的に管理するシステムを構築するとともに、公開コンテンツの拡充、および著作権処理等の運用面の課題解決を図ります**。

【具体的な施策案】

▶教育・学修内容のデジタル化推進

全授業の公開に向けた教育内容(講義および学習成果)のデジタル化を推進するため、**収録設備と収録体制の構築**、具体的には簡易収録ブース、教室授業の自動収録システム等の収録設備拡充と、**学生アルバイトを活用したロケ収録体制の整備**を行います。

また並行して**講義動画(動画シラバス)の全学導入、Commonsの授業における活用を推進するためのモデル開発、字幕付与(多言語化)、コンテンツ制作・著作権処理に関する各種ガイドラインの整備を進めます**。

3. 第6次DCC活動内容

➤ コンテンツの公開と共有

デジタル化した授業や学習成果を集約して公開するためのプラットフォーム を構築し、本格的な運用を開始するとともに、そこで公開するコンテンツの拡充を進めます。公開されたコンテンツはデータベースによる検索に加え、画像検索、音声検索など **様々な方法で検索** することができ、またアクセス数や推薦数によるランキング表示、関連動画の表示など、**コンテンツへの到達性を担保する仕組み**を提供します。

また日本またはアジアにおける**MOOCs** (Massive Open Online Courses)の**普及モデル**を検証し、効果的な活用を検討します。

➤ ACC (Asia Cyberlearning Community)の実現

ACC (Asia CyberLearning Community)を、誰もが学び教えあう、企業や大学などの枠組みを超越したボーダーレスな学びのコミュニティとして具現化します。

3. 第6次DCC活動内容

(2) 国際化の次なる段階を生き抜くグローバル人材の育成

◆グローバル人材育成

海外大学との共同プロジェクトによる**実践的なディスカッション、グループワーク**などを通じ、**異文化コミュニケーションスキルを向上させ、国際化の次なる段階を生き抜くグローバル人材を育成**します。

【具体的な施策案】

➤CCDL・サイバーゼミの新たな展開

CCDLにおいて、早稲田大学と複数の大学とが同時に交流を行う「**Multi-national class**」の本格導入を検討します。また交流地域について、アジアのみならず、**全世界へ拡大**することを目指します。サイバーゼミについては、**カスタマイズして既存授業に導入可能なモデルを開発**し、複数の授業で導入を進めます。

またWeb会議システムやチャットシステムなどの交流ツールについては**新たな仕組みを導入**することにより授業の可能性をひろげます。

➤日本語・日本文化プロジェクト

Web会議システム、オンデマンドコンテンツを活用した日本語教育プログラムを開発し、早稲田大学における**外国人留学生の渡日前教育や、入学後のフォローアップ**における活用を目指します。

➤オンラインプレゼンテーションコンテスト

プレゼンテーションスキルをはじめとした**グローバルコミュニケーションスキルの向上**を目指し、**オンラインプレゼンテーションコンテスト**(日本語、英語)を定期的に開催します。また、**グローバルプレゼンテーションコンテスト(英語)**については**参加大学および参加国・地域の拡大**を目指します。

3. 第6次DCC活動内容

(3) 産学連携による知の国際連携

◆「産学連携と社会貢献」

会員企業と大学関係者の情報交換、交流の場を提供することにより、学生を含めた学内関係者に対し、**DCCの活動に関する理解を深める**ための機会とします。また、DCCのプロジェクトを進めるための基盤を強化するとともに、これまでの**DCCの成果を活用した社会貢献活動**を展開します。

【具体的な施策案】

➤会員企業との連携強化

「**産学交流フォーラム**」の定期開催、大学による定期的な情報提供、**国内外における視察調査**の実施などを通じ、**早稲田大学と会員企業との連携を強化**します。

➤社会貢献活動

実務能力認定機構(ACPA)、オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)など、**NPO法人の活動を支援**します。また、**DCCの成果を広く社会に還元**するために、**積極的な広報活動**を推進します。

4. 会員企業の参加方式

◆幹事会員

- 会費:年額1,100万円以上
- DCC理事会・運営委員会のメンバー
- DCC活動計画の策定およびプロジェクト運営に参画

◆準幹事会員

- 会費:年額300万円以上
- DCC運営委員会へオブザーバーとしての参加が可能

◆一般会員

- 会費:年額一口30万円(何口でも可)

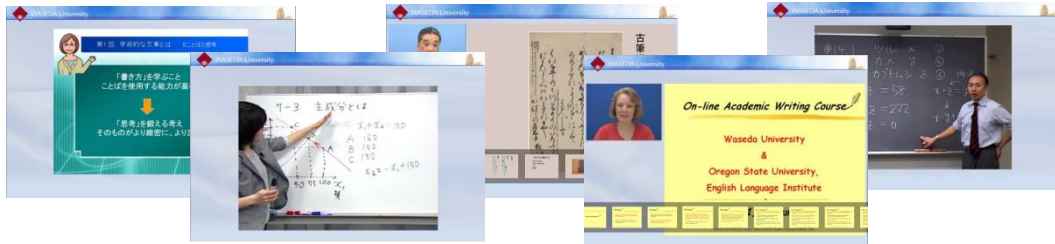
[付録]第1次～第5次DCCの実績

正規授業として定着した教育プログラムの成果

■DCCの活動から始まり、正規授業として定着した教育プログラムの状況

◆インターネットオンデマンド授業

学生がいつでも、どこからでも、何度でも受講できる授業形態の導入



オンデマンド授業科目数推移

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
通学制	206	258	398	441	456	517	484	446	442	439
eスクール	97	179	313	395	439	508	535	545	519	553
合計	303	437	711	836	895	1,025	1,019	991	961	992

オンデマンド授業科目履修者数推移

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
通学制	10,556	12,119	19,765	19,127	23,051	25,811	30,551	33,152	38,113	42,342
eスクール	2,921	4,273	6,460	7,045	8,137	9,093	9,049	8,200	7,762	7,739
合計	13,477	16,392	26,225	26,172	31,188	34,904	39,600	41,352	45,875	50,081

◆Tutorial English

4人1組の少人数レッスンによる徹底したコミュニケーション能力の育成



	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
受講者数	約 8,300	約 9,500	約 9,500	約 8,200	約8,500	約 8,400	約 8,100	約8,000	約7,800

◆異文化交流実践講座(Cross-Cultural Distance Learning)

海外提携校のパートナーとのリアルタイムオンラインチャットによる異文化交流

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
受講者数	3,416	5,305	6,378	7,359	7,965	7,828	7,200	7,499
内訳	早稲田	2,235	3,211	3,379	3,477	3,543	3,306	3,525
	海外	1,181	2,094	2,999	3,882	4,422	3,894	3,974



DCC(第1次) 1999～2001年度

DCC第1次活動(1999～2001年度)では、時空を越えた「オープンキャンパス」の創出を目指し、大学の持つ知的資源と企業などが持つデジタル化・情報化技術を融合することで、多くの成果をあげました。

オンデマンド授業の実用化

実験を通じて、オンデマンド授業メソッドを開発し、実用化しました。(2001年度:5科目)

[オンデマンド授業の特徴]

- ✦ いつでも、どこでも、何度でも学習可能
⇒ 授業内容の理解促進、定着化
- ✦ BBSを用いた活発なコミュニケーション
⇒ 課題発見・解決型授業の実現

チュートリアル英語学習

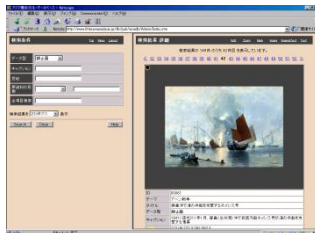
プログラムの開発

学生4名にチューター1名の徹底した少人数教育による英語コミュニケーション能力の基礎力養成プログラムを開発しました。

2001年度は、のべ2,800人が受講し、英語スピーキング能力テスト(SST)スコア向上を確認しました。

学術データベースのオンライン公開

学術資料のデジタルコンテンツ化
書籍情報のデータベース化
DVD『狂言でござる』(角川書店)出版
⇒ 40点にせまる学術データベースのオープン化



学術データベース

海外協定校とのネットワーク型

異文化交流ゼミ(CCDL)実施

16カ国・30大学との外国語による共同ゼミ
チャットやビデオ会議システムを用いて双方のリアルタイムコミュニケーションにより、国際コミュニケーションプログラムを実践

- ✦ オンラインチャット
学生間でのリアルタイムチャット
- ✦ サイバーセミナー
専門分野におけるディスカッション
- ✦ サイバーレクチャー
より専門的なテーマを扱う遠隔講義

社会人向け 遠隔講座配信

衛星通信で34科目を日本各地の受講教室へ配信

企業と早稲田大学の 共同事業会社設立

企業(技術力・事業力)と大学(学術資産・ノウハウ)を融合し、2社設立

- ✦ 早稲田大学インターナショナル
- ✦ 早稲田大学ラーニングスクエア

出版活動支援

- ✦ 「早稲田大学
デジタル革命」
(アルク、2000年)
- ✦ 「早稲田大学
新世紀への挑戦」
(東洋経済新報社、
2001年)

DCC(第2次) 2002～2004年度

DCC(第1次)での成果を引き継ぎ、DCC(第2次)では「21世紀型大学モデルの実現」に向けて、以下のプロジェクトを柱に活動しました。

■ CUC設立のための実験講座

サイバー・ユニバーシティ・コンソーシアム(CUC)の設立を目指し、オンデマンド授業やライブセッション(ビデオ会議)を組み合わせた海外大学との共同遠隔授業を実施

- ▣ 「アジアの共生」(2003年度～)
- ▣ 「World Englishes and Miscommunications」(2004年度～)
- ▣ 国際シンポジウム開催
「アジア太平洋地域に築く『知』の共創世界を目指して」(2003年12月20日)
「アジア太平洋の連携を深める“Cyber University Consortium”への挑戦」(2004年12月22日)

■ CCDL講座

ビデオチャットやビデオ会議システムを用いた、海外パートナー大学とのネットワーク型異文化交流ゼミ(CCDL: Cross-Cultural Distance Learning)

- ▣ 2004年度までの参加数は、21カ国・44大学(機関)
- ▣ 2002～2004年度までの、のべ参加学生数(早大生)は、約9千名
- ▣ 外国語運用能力の向上ばかりではなく、学生の内発的な学習意欲の向上にも効果

■ 外国語コミュニケーション講座

ビデオ会議システムなどを利用し、海外在住のネイティブチューターによる語学レッスンプログラムを実施

- ▣ 英語コミュニケーション講座(のべ参加学生数:約150名)
- ▣ 中国語コミュニケーション講座(のべ参加学生数:約300名)
- ▣ ロシア語/日本語コミュニケーション講座(のべ参加学生数:約80名)

■ 日本語教育講座

海外に在住する日本への留学希望者をサポートする日本語教育プログラムを開発

- ▣ 「日本語教育学オンデマンド講座」(のべ参加学生数:約70名)
- ▣ 「留学生のための就職活動支援」(2004年度 早稲田大学の留学生向けに実施)

■ 会員企業提供講座

企業人講師によるオンデマンド講座を実施し、企業との新たな連携の可能性を検証

- ▣ 「日本のIT動向講座」(2003年度～)
- ▣ 「日本のIT動向講座ーロボット技術編」(2004年度～)



[日本のIT動向講座ーロボット編]

■ NPO法人 実務能力認定機構(ACPA)/NPO法人 オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)支援

DCCの目的達成のために、ACPAおよびFOLCの諸活動を支援し、国内外の他大学および企業との連携を深めました。

- ▣ ACPA(2004年2月にNPOとして正式発足)
- ▣ FOLC(2004年2月設立研究会発足～2005年2月設立)

■ CUC設立プロジェクト

CUC設立に向けて、システム開発や運用検討を行いました。

- ▣ CUCに必要なネットワーク、システムの検討および標準化
- ▣ オンデマンド授業システム(Oic)の開発および英語対応
- ▣ CUCの運用および単位互換等の検討

■ 出版活動支援

DCC活動や早稲田大学の取り組みについて広く知っていただくために以下の出版を支援しました。

- ▣ 『だから早稲田はトクなんです』日経ホーム出版社(2002)
- ▣ 『いま、最先端の研究がおもしろい』松岡一郎著 中央公論新社(2003)
- ▣ 『研究の最前線を見る』読売新聞大学取材班 中央公論新社(2004)
- ▣ 『英語は早稲田で学べ』中野美知子編著 東洋経済新報社(2005)

DCC(第3次) 2005～2007年度

DCC(第3次)では、第2次までの成果を引き継ぎ、産業界と大学が協同しアジアを中心とした「アジア・サイバー・カレッジ」(ACC)の創設に向けて、日本の高等教育全体の発展により直接的に寄与するために、以下のプロジェクトを推進しました。

■ CUC～共同実験講座プロジェクト

ACCの基盤となる「サイバーユニバーシティコンソーシアム(CUC)」の設立を目指し、オンデマンド授業やライブセッション(ビデオ会議)を組み合わせた海外大学との共同遠隔授業を実施

- ▣ 「アジアの共生」(2003～2006年度)
- ▣ 「東アジア共同体の形成に向けて」(2006～2007年度)
- ▣ 「東アジアの自由貿易協定(FTA)」(2007年度～)
- ▣ 「World Englishes and Miscommunications」(2004年度～)
- ▣ 国際シンポジウム「東アジア経済統合をめざして」(2008年1月19日)
- ▣ 「SEAMEO RELC 第3回国際共同セミナー」(2008年2月)を開催

■ ネットワーク型異文化交流ゼミ(CCDL)プロジェクト

チャットやビデオ会議システムを用いた、海外パートナー大学とのネットワーク型異文化交流を支援

- ▣ 研究型(従来型)CCDLに加えて、CCDLの実践を中心に授業を構成した展開型CCDLを開始
- ▣ 交流校21カ国・79大学/機関、のべ参加学生 研究型CCDL 2,225名、展開型CCDL 321名(2007年度実績)

■ 日本語教育プロジェクト

日本語学習や日本留学を希望する海外在住者向けのコンテンツの開発と展開

- ▣ 留学生就職活動支援のため、オンデマンドコンテンツ「留学生の就職活動」を開発
- ▣ ヨーロッパ各国の企業が日本へのビジネス展開を検討するための人材育成プログラム Executive Training Programme -Japan のオンデマンドコンテンツをDCCにて制作
- ▣ 早稲田エデュケーション・タイランド(WET)制作の日本語学習教材「漢字ワークブック」をもとに、タイ人向け初級漢字学習ソフト「わせた初級漢字365」をWETと共同開発し、タイ国内の学校・大学等にて無償配布

■ 高校・大学連携教育プロジェクト

オンデマンドコンテンツを活用した高大連携プロジェクトのさらなる展開と、大学広報手段としての確立

- ▣ 2004年度よりスタートした「大学体験webサイト」をさらに拡充し、模擬講義や学生紹介、学部学科紹介といった既存ジャンルを充実化、および大学院模擬講義・研究科紹介を新たに公開

■ 社会連携事業支援プロジェクト

NPO法人 実務能力認定機構(ACPA)／NPO法人 オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)支援

- ▣ ACPAは、2004年2月のNPO法人としての正式発足以降、各業種区分における実務能力基準表の制定を進め、2006年4月より認証事業を開始し、約70講座を認証
- ▣ FOLCは、2008年3月にNPO法人としての認定を受け、学校会員と講座提供機関をつなぐ「eラーニングのポータルサイト」として、日本におけるオンデマンド授業科目の一大データベース化に向けて活動

■ プロジェクト研究所活動支援

以下のプロジェクト研究所を設置し活動を支援

- ▣ 次世代e-learning総合研究所 ▣ 遠隔教育・テスト理論研究所 ▣ CCDL研究所
- ▣ OSS研究所 ▣ アジアIT戦略研究所

■ 会員交流活動

DCC会員企業と早稲田大学との定期的なコミュニケーション・情報交換の場を提供

- ▣ 計22回の「DCC産学交流フォーラム」を開催し、2007年12月15日には国際シンポジウム「DCC祭り」を開催
- ▣ 北京、韓国、タイへの海外eラーニング視察調査を実施

■ 広報活動

DCC活動や早稲田大学の取り組みに関する広報・出版活動を支援

- ▣ 『大学力』 白井克彦、枝廣淳子著 主婦の友社(2005)
- ▣ 『研究室から社会を変える』日経BP企画(2006)
- ▣ 『未来社会を創る研究者たち』日経BP企画(2007)

DCC(第4次) 2008～2010年度

DCC(第4次)では、第3次までの成果を引き継ぎ、ACCをアジアの学生や社会人が、eラーニングを通じてグローバル・リテラシーと実務能力を継続的に学習する機会を提供する仮想の(バーチャルな)仕組みと位置付け、体系化された「ACC/Wコース」科目群の整備と、参加者が互いに学び教合うインターネット上の継続的な学習コミュニティ(QuonNet)の形成を進めました。

■ サイバーゼミプロジェクト

海外の教員・学生との実践的なディスカッションを通じて国際コミュニケーションスキルを向上させ、専門分野で堂々とわたり合えるグローバルな人材の輩出に寄与する教育プログラムを実施

- 「World Englishes and Miscommunications」(2008～2010年度)
- 「東アジアの自由貿易協定(FTA)」(2008～2010年度)
- 「SEAMEO RELC 国際共同セミナー」(2008～2010年度の各2月に開催)
- 「東アジアの自由貿易協定(FTA)」国際学生ワークショップ(2008～2010年度)※2008年度は上海で実施

■ CCDDL(Cross-Cultural Distance Learning)プロジェクト

PCチャットやビデオ会議システムを用いた、海外パートナー大学とのネットワーク型異文化交流を支援

- 研究型(従来型)CCDLでは、英語だけでなく、中国語、仏語、独語などの言語も拡充。
- 展開型CCDLプログラム「異文化交流実践講座」は、韓国・延世大学など相手国を代表する大学との交流開拓に注力し、質の拡充を実現。2010年度は海外相手校6大学と20クラス開講
- 交流校24カ国・91大学/機関、のべ参加学生 3,574名(2010年度実績)

■ 異文化交流とサイバーゼミの拡大

第5次DCCへ向けた本格的な準備を行うため、新たな異文化交流とサイバーゼミの新規実験プログラムを開発

- 「留学生混在型異文化交流プログラム」(Cross-Cultural Discussion)「Tutorial English Training Camp」(国内宿泊型プログラム)を、新たな異文化交流プログラムの開発と実験として実施
- 遠隔交流マッチング支援システムの開発
- 大連理工大学共同プロジェクトによる専門科目での海外大学との交流支援

■ 日本語教育プロジェクト

日本にきた留学生への日本語教育や海外に在住する日本語学習者に向けた学習コンテンツの開発および実験プログラムの実施

- 外国人日本語学習者向け教材として、日本語学習用オンデマンドコンテンツや漢字練習ソフトを開発
- 日本語学習用オンデマンドコンテンツのうち、反響の大きいコンテンツを海外提携校に配信
- 留学生向け日本語教育プロジェクトとして、情報生産システム研究科(IPS)の留学生を対象に、WebチャットシステムLiveOnを用いた遠隔日本語チュートリアル実験授業を実施

■ 次世代eラーニングおよびコンテンツの検討

ICTを活用した新たな教育スタイル確立を推進してきたこれまでの経験を踏まえ、第5次DCCにつなげるべく、動画コンテンツ自主制作ツール「Xpert」の導入やモバイルラーニングの検討などの取り組みを実施

■ 社会連携事業支援プロジェクト

NPO法人 実務能力認定機構(ACPA)／NPO法人 オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)支援

- ACPAは、語学分野を始めとした新規の実務能力基準表の作成や認証対象講座領域の拡充を行うなど、実務能力認定制度の定着を重点とした取り組みを推進
- FOLCは、各大学が地域社会と連携した個性的な教育システムの構築を行える支援活動を推進し、多様な講座を網羅する講座データベースの充実と流通チャネルを構築

■ 会員交流活動

DCC会員企業と早稲田大学との定期的なコミュニケーション・情報交換の場を提供

- 計20回の「DCC産学交流フォーラム」を開催し、台湾・広州・香港・上海・蘇州への海外視察調査を実施

■ 広報活動

DCC活動や早稲田大学の取り組みに関する広報・出版活動を支援

- 『早稲田の杜を変えた組織の「知恵」』 黒田学著 早稲田大学出版部(2008) 他2冊を刊行

DCC(第5次) 2011～2013年度

DCC(第5次)では、第4次までの成果を引き継ぎ、ACC(Asia Cyberlearning Community)を創出し、グローバル化を牽引する人材の育成と地球社会における人的ネットワークを形成するため、以下のプロジェクトを推進しました。

■ サイバーゼミ運営支援

共同遠隔講座『World Englishes and Miscommunications』の支援を継続するとともに、これまでの運営で培った教育方法を新たな取り組みへと展開

- ▣ 「World Englishes and Miscommunications」(教育・総合科学学術院 中野美知子教授)
- ▣ 「アジア学生ネットワーク」(政治経済学術院 砂岡和子教授)
- ▣ 「Global Environmental Politics and Policies」(国際学術院 太田宏教授)

■ ネットワーク型異文化交流ゼミ(CCDL)プロジェクト

チャットやビデオ会議システムを用いた海外パートナー大学とのネットワーク型異文化交流を支援

- ▣ 「CCDL(Cross-Cultural Distance Learning)」の授業計画再検討を行い、早稲田への留学生をProgram Assistant(PA)として授業へ参加させたり、TV会議での交流を2回に増加する等、交流機会を拡充
- ▣ オンラインプレゼンテーションコンテストの実施
- ▣ 交流校24カ国・94大学/機関、のべ学内履修者数3,525名(2012年度実績)

■ 異文化交流機会の充実

- ▣ Tutorial English Training Camp(国内における短期集中宿泊型英語学習プログラム)の開発
- ▣ 遠隔交流マッチング支援システム「CCDL Partner Search Site」の開発・運用

■ モバイルラーニングプロジェクト

ICTを活用した教育・学習スタイルを実現するためのシステムおよびコンテンツを開発

- ▣ Discussion Tutorial Englishにおけるモバイルラーニングシステムの開発
- ▣ モバイル端末向けのデジタルブックとクイズ機能連携教材や、簡易アンケート機能の開発
- ▣ スマホ向けアプリ「WASEDA Mobile」、「World Englishes(世界の英語たち)」の開発

■ 教育・学修内容公開プロジェクト

Waseda Vision 150の教育・学修内容公開を達成するため、簡易収録や自動収録システムの開発・普及を実践

- ▣ 自分自身のPCで手軽に動画コンテンツを作成・蓄積・公開できるシステム「Waseda-net Commons」を導入
- ▣ 教室授業の収録や、「対話型、問題発見・解決型教育」を実現するため次世代教室空間の検討を開始
- ▣ iTunes Uの早稲田大学専用チャンネルでの配信コンテンツをオンデマンド授業を中心に約500に拡大
- ▣ 授業動画・資料・学生の成果物を公開するポータルサイトの構築に着手
- ▣ 早稲田大学におけるICTを活用した授業のGood Practiceを表彰するWaseda e-Teaching Awardを実施
- ▣ 「早稲田大学体験webサイト」にて、双方向性のある模擬講義の無償公開・修了証の発行を実施

■ オンラインプレゼンテーションコンテスト

- ▣ 韓国・高麗大学と共催で「Waseda University Korea University Global Presentation Competition」を開催
- ▣ Waseda Vision150に対する具体的施策の提案を募る「Waseda Vision 150 Student Competition」を開催

■ 日本語学習者へのビジネスマインド研修プロジェクト

- ▣ 第4次DCCの分析調査をもとに、アジアの日本語学習者のニーズに合わせた研修を企画・実施

■ 大学・社会連携プロジェクト

- ▣ NPO法人 実務能力認定機構(ACPA)では、「社会人リテラシー基準表」による講座認証と個人認定への活用や、「大学マネジメント・業務スキル基準表」の普及活動を支援
- ▣ NPO法人 オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)では、ACPAと連携し、企業が提供する実践的スキル講座の開拓と普及活動を支援

■ 会員交流活動

DCC会員企業と早稲田大学との定期的なコミュニケーション・情報交換の場を提供

- ▣ 計16回の「DCC産学交流フォーラム」を開催し、シンガポール、韓国への海外視察調査を実施



早稲田大学デジタルキャンパスコンソーシアム事務局

〒169-8050

東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学早稲田キャンパス24号館4階

電話 03-3203-6314

FAX 03-5273-4396

e-mail dcc@list.waseda.jp

URL <http://www.waseda.jp/dcc/>